

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ドリームズ・21st徳川校		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日 ～ 2026年1月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年1月13日 ～ 2026年1月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通所日の活動の様子をHUGシステムにより、写真付きコメントで保護者へお知らせしている。	それまでにできなかったことができるようになった時、保護者へお知らせし、家庭でもほめてもらうように工夫している。	保護者同士の交流の場をイベント時に開催し、家族支援を充実させていきたい。
2	スタッフに、教員出身者が多く、学校との連携がスムーズに実施できている。	学習に関する支援（宿題等）を実施し、年1回、独自の漢字検定・ひらがな検定・カタカナ検定を実施している。	学習の弱点を見つけ出し、その対策を一人ひとりに合った支援内容へと発展させていきたい。
3	情操教育に力を入れ、工作活動を通して、「できる喜び」を味わわせている。	年1回作品展を開催し、年間を通した作品をご家族の方へ鑑賞していただいている。	積み上げてきた工作・絵画の制作過程をまとめた「出版物」を作成し、ご家庭でも子育ての支援に役立ててもらう。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生低学年の児童が多く、高学年や中学生・高校生の通所が少ない。	SSTを中心により良い療育を目指しているが、高学年以上は学習支援を望むことが多い。	パソコン療育を導入し、プログラミング教育など、中・高校生向けのプログラムの開発を検討していきたい。
2	小学校1年生から高校生までを対象としているが、療育内容に違いが多く生じてきている。	一人ひとりの個別支援計画に基づき療育活動を行っているが、内容が多岐に渡っている。	小学生と中・高校生とでサービス提供時間を分けることも視野に置いている。
3	特別支援学級に在籍している児童への学習支援が不十分である。	特別支援学級での学習支援を十分に把握しきれていなかった。	特別支援学級の担任とより連携を密にし、適する教材を準備していきたい。
4	地域との連携・交流が不十分である。	学区及び児童館とのつながりがまだできていない。	夏のイベント時に交流できる場を設け、連携の糸口としたい。